

千葉県国土利用計画地方審議会 議事概要

1 日 時 平成21年1月20日(火) 午後1時～3時

2 場 所 きばーる 13階 第2・3会議室
(千葉市中央区中央4-5-1)

3 出席者(委員)

加瀬会長、赤田委員、秋林委員、飯田委員、大江委員、岡田(幸)委員、
岡田(勝)委員、岡村委員、親泊委員、佐倉委員、佐藤委員、高橋(節)委員、
服部委員、林委員、松崎委員、宮脇委員、山田(多)委員、山田(利)委員

4 議 事

1) 開 会

2) 新任委員の紹介

3名の新任委員(秋林委員、高木委員、田嶋委員)を事務局より紹介。

2) 議 事

(1) 千葉県土地利用基本計画(計画図)の変更について(諮問)

事務局より変更事案5件について議案資料及び計画図等で説明し、原案のとおり変更することについて承認された。

(2) 県土利用のモニタリング制度及び計画評価制度について(諮問)

(3) 調査検討部会設置要綱の改正について

事務局より(2)及び(3)について説明し、モニタリング制度を調査検討部会で検討していくこと、及び、調査検討部会設置要綱を原案のとおり改正することについて承認された。

(4) 報告事項

千葉県土地利用基本計画見直しのスケジュールについて
国土形成計画(首都圏広域地方計画)の策定状況について

3) 閉 会

4) 主な発言内容(順不同)

土地利用基本計画変更の5案件のうち4番の物流倉庫施設については、いつごろ建てられる計画なのか。

(事務局)

物流倉庫施設の建築時期については把握していないが、林地開発については造成されたことをもって完了確認がされている。

第4次国土利用計画では、平成16年から29年にかけて、森林の減少を約2,800ヘクタールにとどめることとしているが、平成19年末の林地開発許可状況を見ると、これから3,038ヘクタールもの森林が減少するように見える。これに歯止めをかける方策を考えているのか。

(事務局)

林地開発を許可する場合、災害の危険性などの審査を行い、適正な森林の開発が行われるよう指導している。また、3,000ヘクタール余りのすべてが森林でなくなるわけではなく、残置森林率部分については残る。

平成16年に162,500ヘクタールあった森林が、今は大幅に減少しているようだが、この状況で、第4次国土利用計画の目標を達成できるのか。

(事務局)

第4次国土利用計画では、森林が減少するペースを抑えていくことを目指している。そのため、林業の担い手の確保や間伐材の利用などをしながら森林を守るという動きがある。また、企業の方々が植林や森林保全を地元の人たちと一緒に行うという動きもあり、県ではこのような活動について支援を行っている。

モニタリング制度と計画評価制度の実施について調査検討部会で議論するときには、森林の目標達成に向けた方策の検討をぜひ願います。

モニタリング関係で県民の方の意見を吸い上げる際には、大多数の人はわざわざ言ってくれないと思うので、町内会やPTAなどの場に行って、ヒアリングをしてほしい。

土地利用の現況を正確に把握するために、GISや航空写真などを活用してモニタリングすべきだと思う。

土地の面積がどうなるかだけでなく、水循環をどのように進めるかについてもモニタリングの部会で議論していただきたい。

首都圏広域地方計画中間整理は、経済力重視の観点からの記述が多いと思う。もう少し、日本の美意識だとか暮らしの流儀が経済力をサポートするのだという見方をしてもよいと思う。

(事務局)

以前、国の主導でつくられていた「全国総合開発計画」が、「国土形成計画」へと変わったものである。特に「首都圏広域地方計画」については、地方の意見も取り入れて策定作業が行われているので、千葉県としても、本日いただいた意見を関東地方整備局(事務局)に伝えていきたい。

国土形成計画広域地方計画は、議論が道州制と同じ流れになっていると思う。市町村との意見交換はどうなっているのか確認したい。

(事務局)

首都圏広域地方計画における市町村との意見交換については、関東地方整備局が各都県の市長会・町村会の正副会長と行う予定である。また、これは道州制の議論とはまったく別である。

森林面積については、面積に現れない森林の劣化も大きな問題だと思う。土砂採取や残土埋立地になっているところでも、森林面積に含まれているのか。

(事務局)

森林面積に入っている。

森林面積に入っているけれども、実際には森林になっていないところが、千葉県には多くあると思う。そのような面積はどの程度あるのか。

(事務局)

数値については資料がないので分からないが、そのようなところは森林計画に入っているもので、現在開発中であり、今後は森林に戻るものである。

実際には、何十年にもわたって森林でない状態が続いている。しかも、開発が終了しているので、質の高い森林にはなかなか戻らないという現実がある。そのような実情や面積について分かるように、調査検討部会で検討していただきたい。

以上